

# 若年層のコロナ禍での行動変容

大学生のオンライン教育状況意向の大規模調査データから考える

2023-03-04

中川 譲

## 1.はじめに

2020年のCOVID-19流行以後、ほぼすべての大学は授業をオンライン化し、ネット上での大学生活が日本の新たなスタンダードとなったことは記憶に新しい。ただ、大学生や大学組織が今後もオンライン教育を望んでいるか否かについては賛否両論がある。

例えば、文部科学省の2021年3月に発表した調査「新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査」<sup>1</sup>によれば、学生はオンライン授業について「満足を感じる割合の方が多い」とのことであり、2022年7月時点での民間の調査においても、オンライン授業に満足している学生の割合は高く、また2022年度もオンライン授業を実施している大学の割合は50%前後あることが分かる<sup>2</sup>。その一方で、2021年2月の月の衆議院予算委員会では、萩生田光一文部科学大臣（当時）が「(大学に調査をやらせると)多くの学生がオンライン授業に満足しているという結果(をあげてくる)」が「(学生はオンライン授業に)本当はすごい不満なんですけれども、しかし我慢をしている」との答弁をしており、文部科学省においてもオンライン授業についての態度が一枚岩ではないことが伺える。

こうしたオンライン授業を巡る賛否の状況を踏まえて、当事者である大学生は実際どのように考えているのか、オンライン授業を望む学生・望まない学生にはどのような特徴があるのかについての大规模調査を行った調査研究が、2023年3月2日の情報処理学会にて発表された<sup>3</sup>。本発表では、この調査結果などの量的な現状把握を踏まえた上で、学習動機を分類したHouleの3類型を参考に、現在の大学のオンライン教育が大学教育を受ける学生達の学習動機をカバーできているのか、またその状況の理解と知見は他分野への類推も可能なかどうかを検討していきたい。

---

<sup>1</sup> [https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

<sup>2</sup> <https://univ-journal.jp/179236/>

<sup>3</sup> 井出・中川・福島「オンライン教育を希望する大学生の規定要因」<https://onsite.gakkai-web.net/ipsj/abstract/data/pdf/1G-01.html>

## 2. 調査から言えること

前述の井出・中川・福島による統計解析から明らかになったオンライン教育上を望む学生の特徴は幾つか確認できるが、特に以下の3点について特記されている。

1. 社会科学系の学部であること
2. 大学に通う目的が学位の取得であること
3. インターネット利用時間が長いこと

本稿で深掘りしていきたいのは2であり、学生の大学に通う目的が学位の取得であるという点である。この調査では全体の6割弱の学生が大学に通う目的として学位の取得を挙げており、交流目的は3割以下、人脈の構築は2割程度、友人の獲得に至っては15%未満とかなり低い。大学がレジャーランド化しているというような批判はよく耳にするものであったが、少なくともこの調査の対象の大学生達は実に真面目な「学生」である。

そして、大学に学位の取得を望む学生はオンライン授業に対して肯定的であり今後も継続を望む一方で、大学に「将来に向けた能力を身につける」や「色々な価値観の人達と交流する」といった場を期待する学生はオンライン授業に対して否定的であった旨が記述されている。サークル活動や友人との交流を望む学生がオンライン授業を望んでいないという旨は容易に想像がつくところではあるものの、将来に向けた能力を身につけたい学生もオンライン授業に否定的であるというのは少々引かかるところである。言うまでもなく、学位を取得したいという意欲と、能力を身につけたいという意欲は、似て非なるものである。

## 3. 学習動機を考える

やや古い文献ではあるが、Cyril O. Houleの“The Inquiring Mind: A Study of the Adult Who Continues to Learn”（1961）から、学習者（フールは成人の学習者のタイプ別けとしているが、三輪建二は「学習(学習内容)のタイプと言ってよい」としている<sup>4</sup>ので本稿もそれに倣う)の3分類を用いて整理してみたい。フールは学習者の動機を以下の3つへ区分している。

1. 目的志向：目標達成の手段として学習を位置付ける
2. 活動志向：友人を見つけるなど、学習の活動の中から何かを得ようとする
3. 学習志向：知識の獲得自体に意味を見出す

---

<sup>4</sup> 三輪建二「生涯学習における学習者像と学習支援」（麻生誠・堀 薫夫編『生涯学習と自己実現』・2003）

フルの分類を踏まえると、今後のオンライン授業を望むのは、学位取得を求める目的志向の学生であり、そして、活動志向や学習志向の学生は、少なくとも現在の大学のオンライン授業をあまり望んでいないと整理できるだろう。これはなかなか示唆的である。というのは、知識の獲得自体に意味を見出すという、恐らくは学習という行為が自己目的化しているであろう、詰まるところ学徒としての適性が非常に高そうな学習志向の学生が、少なくとも2020年からの大学のオンライン授業の継続をあまり望んでいない、という傾向が伺えるからである。

現代の日本の大学のオンライン授業は、学位取得という大学の主目的に特化した実装になっているのではないだろうか。ここで思い出すのは新シカゴ学派のLawrence Lessigが指摘した<sup>5</sup>、オンラインのプラットフォーム（アーキテクチャ）は、その設計意図以外の利用者の行動を不可視的に抑制するという特徴である。効率的な授業実施や受講に特化したシステムを用意しステップバイステップの授業の段取りを準備すれば、学位取得までのルールが容易になることには疑いない。しかしながらそれが、幅広い知の涵養を求めに大学へ来た学生に対して、ベストなインターネットを用いたコミュニティの実装でありえるのかといえば、それは間違いなく“No”であると言えよう。現在の大学のオンライン授業のためのプラットフォームは、オンライン授業の実施という目的に特化し過ぎているのではないか。

Wikipediaなどのオンラインコミュニティを構築してきた先人達はどのようにオンラインに集まる人々の学習動機を整理し、システムの実装へ反映してきたのかという視点で先行研究を調べてみると、例えば“Motivations of Contributors to Wikipedia” (2009)<sup>6</sup>や“Why users contribute knowledge to online communities? An empirical study of an online social Q&A community” (2013)<sup>7</sup>では、スキルの向上・自己成長、人脈構築・評判の向上、自己表現・興味・楽しみ、人助け・共有・社会的責任などといった参加者の動機が取り上げられているが、決定的なのは、学位取得のような個人的である種利己的とも言える（もちろん間違っているわけではなく学生個人としては最も正しい動機でもあるのだが）「目的志向」が存在していないことである。こうした「目的志向」はオンラインのコミュニティとは相性が悪いのかもしれない。

## 4. まとめ

大学生の「学位取得」のような目的志向がオンラインでのコミュニティと相性が悪いのであるならば、これからの大学には目的志向が強い現在のオンライン授業のプラットフォームとは別に、コミュニティの機能に実装を検討するか、それともコミュニ

---

<sup>5</sup> ローレンス・レッシグ、山形浩生・柏木亮二訳 『CODEインターネットの合法・違法・プライバシー』 (2001)

<sup>6</sup> <http://dx.doi.org/10.1145/1215942.1215943>

<sup>7</sup> <http://dx.doi.org/10.1016/j.im.2015.07.005>

ティ機能についてはオンライン化を放棄し、オフラインにて同等の「場」の構築を行うことが求められるであろう。蛇足になるが、筆者は先日以下のようなTweetを行ったところ、600万以上のインプレッションを獲得し、あるべき大学の形としては大変好意的に受け止められたようである。

俺の好きな「大学」は、構内に24時間いられて、サンマ焼いて消防車が来て以後七輪は禁止になったけどそれ以外の料理も酒もOKで、住んでるんだか通ってるんだか境界はグズグズになり、PCと紙と本と生活雑貨が渾然一体の山となってる中、隣の友達とゲームして酒飲みながらガチ議論する、そういう場です。  
<https://twitter.com/mishiki/status/1628826384411000833>

18歳人口が減少していく今後の社会において、現在のオンライン授業の仕組みを活用しつつどのように学びのコミュニティを形成していくことが可能なのか、本稿が特に大学関係者への課題として一つの外縁を提示できれば幸いである。